

## 第 5 回板橋区資源環境審議会清掃・リサイクル部会 議事録

(令和7年 8 月 6 日(火): 午後 1 時 00 分～午後 2 時 30 分)

### ○資源循環推進課長

それでは定刻になりましたので、まだお越しになられていない委員さまがいらっしゃいますが、これより第 5 回清掃・リサイクル部会を開会いたします。清掃・リサイクル部会事務局の資源循環推進課長小熊です。どうぞよろしくお願いします。

開会に先立ちまして、先日、7 月 22 日の資源環境審議会にて委嘱のありましたお二方をご紹介させていただきます。なお、委員名簿に所属等を記載していますので、所属の紹介は省略させていただきますと思います。まず、工藤嗣人様です。よろしくお願いします。大戸孝宏様は委員になられていますが、本日はご欠席です。なお、本日は、石垣部会長、大戸委員、河野委員のお三方からご欠席の連絡をいただいています。

議題に入る前に資料の確認をさせていただきます。着座にてご説明させていただきます。

まず、本日、机上の配布資料としまして、委員名簿、座席表、「ご意見・ご質問について」です。その後ろにございますのが、石垣部会長様からご意見をいただいていますので、そちらのシートです。そして、横向きの参考資料として、「第 4 回清掃・リサイクル部会意見への対応」というシートです。最後に、資料 3 の差し替え版です。また、事前に送付させていただいたものとしましては、次第と資料 1、(仮称)板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 素案(案)概要版、資料 2、(仮称)板橋区一般廃棄物処理基本計画 2035 素案(案)という冊子です。資料 3 は、本日修正させていただくところです。以上ですが、不足等、大丈夫でしょうか。なお、本日の傍聴者は 0 名です。よろしくお願いします。

それでは、磐田副部会長様、進行をお願いします。

### ○副部会長

それでは、次第に基づき議事に入りたいと思います。本日、審議したい内容としましては、素案(案)についてです。今回、特に取り上げる箇所は、再使用・再生利用促進、収集運搬、適正処理処分、そして生活排水処理基本計画の項目となります。

それでは、素案につきまして、事務局よりご説明をお願いします。

### ○資源循環推進課長

それでは事務局よりご説明します。まず、資料 1 をご覧いただければと思います。資料 1 につきましては、こちらは素案の概要版というところで、内容としましては、資料 2 の素案(案)の内容を抜粋したものとなっています。なお、資料 1 の 1 枚目の裏面の 5 番、「計画目標(第 3 章)」という部分がありますが、こちらは、今回、資料 3 の修正というところがありまして、こちらについては修正をさせていただく予定としています。

それでは、本編の資料 2 をご説明させていただければと思います。資料 2 の冊子をご用意ください。

今回の素案につきましては、前回、7 月 22 日の審議会においては、進捗の報告というところで、それまで決まりました骨子とともに、その時点での資料を、部会の皆さまを含め、審議会委員の皆さま全体にご報告をさせていただいたところです。今回の資料 2 につきましては、前回の 7 月の部会からご指摘等をいただいた部分を修正し反映したものとなっています。前回は、情報発信やリデュース、食品ロスにつきましてご審議いただきましたので、そちらについて修正を加え、それ以降の部分につきましては今回初めての記載というところです。

初めに、資料 2 の前回からの大きな修正点についてご説明させていただければと思います。資料 2 の 2 ページをご覧ください。2 ページが「計画の位置づけ」で、こちら図 2 の、法体系、区、東京都の位置づけというところで、前回との違いですが、こちらは一般廃棄物処理基本計画ですが、この関連計画で災害廃棄物処理計画というものがあります。こちらは、この計画と関連が強い部分ですので、区の計画の「一般廃棄物処理基本計画 2035」の右側に、災害廃棄物に関する記載を加えています。

続いての大きな変更箇所を申し上げます。22 ページをご覧ください。こちらは「計画目標の達成状況」というところで、指標 1 につきましては令和 6 年度の数字が明らかになっていますので、579g／人日ということで令和 6 年度の数字を記載しています。右側、リサイクル率につきましては、現在、なお集計中で、原案までにはそちらのほうに記載する予定となっています。

続いて 28 ページをご覧ください。「達成目標」というところです。「達成目標 1 循環型社会の実現」、こちらは、循環型経済等異なる表現でしたが、「循環型社会の実現」としています。また、今回の取り組み自体が、いわゆる共創、共に創るという視点がありますので、その中に「区民・事業者・行政の協働・共創」という表現をさせていただいています。また、今回の全体計画として、どのようなものを目指すかというところで「行動変容と社会的基盤づくり」という記載もさせていただきました。

また、その下、中段になりますが、「達成目標実現に向けて」というところで、今般の計画がいわゆるサーキュラーエコノミーを見据えるという部分がありますので、こちらの中で視座として、サーキュラーエコノミーを記載させていただいています。

その下、「行動変容と社会的基盤」につきましては、本計画では、いわゆる区民の方ですとか事業者の皆さまの行動変容というところで、行動を変えるということ。そのために、目指す部分としては、「行動を支える「仕組み・場・情報・技術」を整える」というところを設定しています。

続いて 31 ページ、「計画目標」をご覧ください。「指標」のところ。指標につきましては、前回、お示しさせていただいた区民 1 人 1 日当たりのごみ・資源量および指標 2、ごみ・資源の年間排出量というところです。前回、ご意見、ご質問等の中で、いわゆる 3R のうち、リサイクルの前のリデュース、リユースを強化するというお話、その部分を強調すべきだというお話をいただきまして、指標 1 の考え方のところ、リデュース、リユースの取り組みを示す指標として用いるという記載をさせていただいたところです。

続いて、変更点ということで、32 ページ、33 ページ、次のページをご覧ください。と思い

ます。こちらにつきましては、今回差し替えさせていただいた資料 3 についてのご説明になる部分ですが、こちらは変更前の数字が入っている部分です。まず、こちらの変更を加えました。こちらにつきましては、また後ほどご説明させていただきます。ここまでが前回からの大きな変更点というところです。

続けてよろしいですか。続けさせていただきます。

続いて、今回のテーマとしまして、50 ページになります。今回、ご審議いただく部分が、50 ページ以降「リユース・リサイクル」以降となっています。こちらから始まるところの、骨子案から引き続きの部分がありますが、最初に 55 ページをお開きいただければと思います。

55 ページの「施策の方向性」は骨子と同様で、その下に施策を記載しています。3-1 から 3-7 です。3-1 は「リユースの取組みの実施と支援」、3-2、3-3、3-4 で、いわゆるリサイクルの強化というところです。3-5、3-6、3-7 は、そのリユース・リサイクルを進めるための体制という記載となっています。

その下、「取組の指標」です。現在、4 点挙げています。リサイクルプラザでは、家具の販売、洋服、いわゆるリユース商品の販売等を行っていきまして、リサイクルプラザの来館者数、その下、古紙回収、プラスチック資源回収は、リサイクルの量です。集団回収登録団体数につきましても、区民の皆さまと事業者の皆さまと連携して資源を回収していただいている部分の団体数です。

続いて 56 ページをお開きいただければと思います。具体的な記載です。まず「取組」3-1、「リユースの取組みの実施と支援」というところで、こちらでは、リユース、いわゆるごみとして捨てる、資源回収に出すより前にリユースを優先するところについて、情報発信ですとか仕組みの整備を進める、また民間事業者との連携を進めるところとしています。

その下、丸の項目がありますが、現在、区で実施・運営しているリユース拠点あるいはリユースイベント情報の集約および発信というところです。この中では、資源循環推進課、リサイクルプラザで実施しているものの他、その他、区の各所管課の事業として行っているもの、あるいは民間あるいは地域で取り組んでいるもの等があります。そういったさまざまな情報について集約して発信する等の検討をするものです。

その他、2 つ下になりますが、インターネット・アプリを活用した不用品交換の情報提供や講習会ですとか、その下 2 つは、リサイクルプラザでの取組みを引き続き行うというものです。また、リユースを優先するに当たっては、現在、下から 2 つ目の丸になりますが、家具購入者へのインセンティブ、いわゆるポイントの付与等がありますが、そういったものについて検討するというところです。なお、フードドライブにつきましては、先日といいますか、前回の食品ロス削減推進計画での取組みで、リユース、いわゆるフードドライブ等を実施するというものです。

施策 3-2、3-3 をまとめてご説明します。今回の取組みとしては、厨芥、古紙、プラスチックの 3 つを重視していますが、古紙およびプラスチックの分別回収の徹底という部分です。これらの中で、1 つ今回、取組もうと思っているものが、いわゆる古紙に出した後、プラスチックに出した後、それがどのように分別をされリサイクルされるのか、そういったところを区民の皆さまに発信をするという視点が大事だと考えています。どのように分別・収集され、分別さ

れ、リサイクルされるのか、そういった視点をお伝えすることで、適切な排出ですとか、あるいはより多くの排出につながると考えています。

施策 3-4「不燃・粗大ごみからの資源回収」、こちらは継続して行うものです。

施策 3-5「拠点回収の充実」、今現在でも、使用済み小型家電、廃食用油、古布・古着、ハブラシの拠点回収を行っています、こちらの場所の周知をする。あるいはイベント等で、今、拠点ですが、イベント等を用いて収集する等、充実を図っていくものです。

続いて 58 ページをご覧くださいいただければと思います。1 つ目が「集団回収の支援」というところで、現在、古紙を中心に、町会、自治会の皆さまと回収事業者の皆さまとのご協力の中で行っていただいていますけれども、そちらに対する支援です。町会、自治会への支援、また収集事業者さまへの支援というところを進めていくものです。

最後、施策 3-7「事業者との連携の促進」という部分です。現状でも、資源等、販売店回収が行われています。こちらは、物によっては 3 割とか販売店回収が利用されている、プリンターのカートリッジや電池などの販売店回収の活用について、より区民の皆さまに周知を図るというように考えています。また、一番下の部分になりますが、「容器包装リサイクル法における事業者責任の強化」とありますが、いわゆるリサイクルの仕組みにおいて、費用負担という面も含めまして、事業者の拡大生産者責任の部分については、国に働きかけを行っていくというところ です。

続いて 59 ページの「収集運搬」に移ります。こちらの現状等につきましては、基本的には骨子までのご説明のとおりとなっています。

63 ページをご覧くださいいただければと思います。収集運搬の「施策の方向性」、こちらは骨子と同様です。収集運搬では、施策 4-1 から 4-6 の 6 項目を設定しています。「区民サービスの向上」から始まりまして、いかに集積所に適切に出していただくのかという部分と、あるいは、それが適切に出されなかった場合にどのようにするのか。そして、今後、目下、現状課題といえますか、皆さまからご意見等をいただいている、可燃や資源の収集回数ですとか頻度、そういったものをどうするかということが、こちらの視点となっています。

取り組みの指標としては 2 つ設定してまして、高齢者、障がい者に対する戸別収集件数の増加を図るものです。また、区収集事業系ごみの事業系有料ごみ処理券貼付率、有料シールが貼ってあるものを増やすというところ です。

続いて 64 ページをご覧くださいいただければと思います。先ほどの詳細になりますが、施策 4-1「区民サービスの向上」というところで、「ごみ出しに支援が必要な人への配慮等により区民サービスの向上を図ります。」というところ です。現状では、高齢者、障がい者に対する戸別収集、粗大ごみ運び出しを行っています、この対象を広げるか、広げるのであればいかに広げるかというところにつきましては、検討していくところ です。

施策 4-2「適正排出・集積所等の美化推進」です。こちらについては、いわゆる区民や事業者の皆さまが分別ルールを守りリサイクル活動に取り組みやすい環境を整備するとともに、集積所の美化を推進するというところで、集積所に適切に出していただくために、あるいは集積所

が適切に管理されるために、区として、支援ですとか必要な指導、助言等を行っていくものです。

続いて施策4-3「効率的で持続可能な収集運搬体制の検討」です。まず1点目といたしますが、こちらの視点としましては、収集の担い手、いわゆる労働力人口の低下という部分がありますので、DX化、AI化を使って集積所をデジタルに管理する、あるいはルートをAIによって整理する、そういったところを、少し技術革新の状況等を踏まえながら活用していくことを目指すものです。

また、それと併せまして、丸2つ目になりますが、資源・ごみ量の変化、収集の担い手の減少等を考慮した収集頻度や曜日の検討、持続可能な収集体制の検討・構築というところで、現在可燃ごみの週3回収集は、23区では板橋区だけになりつつあります。そちらに対する対応等を今後検討することを考えています。

続いて65ページ、施策4-4です。「不法投棄・資源の持ち去り対策」で、普及啓発、看板設置、パトロールにより、不法投棄や資源の持ち去り対策を行うとするものです。こちらは、区民の皆さまからの通報等をいただくほか、不法投棄されている集積所に関する掲示等を用いまして、その対応を図っていくものです。

続いて施策4-5「適正処理困難物等への対応」で、区が収集・処理できない適正処理困難物、有害物については、各団体さまと連携を図りながら情報提供をしていくというものです。特に現状におきましては、リチウムイオン電池が昨今、その取り扱いについて、非常に国からも通知、自治体の収集につままして通知が来ていますし、そういったことへの対応について検討を進めていくというところです。また、医療廃棄物がありますが、こちらについては、医師会、歯科医師会、薬剤師会等と連携しまして、適切な処理を進めていくところです。

続いて、施策4-6「集積所等での排出指導の徹底」です。先ほど4-2、「美化推進」というところで、正しく出していただくという事前の段階のご案内がありました。今回、施策4-6では、実際にそこで、誤ったとか不適切ですとか、そういったものが出されてしまった場合への対応という部分です。こちらは、清掃事務所が行うふれあい指導による指導を実施する、あるいは事業系ごみにつままして、リーフレットやチラシというものを、既存のものを活用あるいは新設をしてお配りする等につままして検討するというものです。

続いて、「適正処理・処分」で、65ページ以降となります。こちらの具体的な内容につきましては69ページをご覧くださいと思います。69ページに適正処理・処分の「施策の方向性」が、骨子と同一です。適正処理・処分につまましては、施策5-1から5-5というところです。こちらのポイントとしましては、災害時の対応というものが、先ほど、全体の変更という中で、災害廃棄物処理計画というものが一般廃棄物処理基本計画に関連されているというお話をさせていただきましたけれども、災害時の対応という部分です。また、処理につまましては、23区が収集・運搬を行い、その共同処理として中間処理、清掃工場の清掃一部事務組合、そして最終処分としての東京都ということになっていますが、そちらの全体像それぞれにつまましての取り組みとなっています。

最後、5-5、「家庭ごみの有料化や事業系ごみの排出基準に関する調査・検討」というところは、前回計画でもあり、こちらも引き続き検討するものです。詳細は後ほど説明します。

取り組みの指標としましては 5 点ほど挙げています。69 ページに 3 点、次のページに 2 点あります。まず 69 ページ、「災害廃棄物処理計画改定検討」を毎年検討するというところで考えています。その他、災害関係訓練の実施、不適正処理防止啓発回数、次の 70 ページにつきまして、家庭ごみの排出量、事業系ごみの、いわゆる持ち込みごみの排出量というところについて毎年確認しながら進めていくというところですよ。

具体的な取り組みをお話しさせていただきます。施策 5-1「災害時の対応」です。こちらにつきましては、令和 3 年に、板橋区災害廃棄物処理計画で、いわゆる地震や水害といったものを定めましたけれども、その後、東京都の被害想定が変わったり、あるいは区でも地域防災計画が改定されたりという部分があります。また今般、23 区全体で災害時の対応ガイドラインというものを改定中で、その改定内容を踏まえて、今現在、令和 3 年に整理した災害廃棄物処理計画についても改定する必要があると考えています。その他、訓練を実施するという部分と、一番下の丸については、集中豪雨等、局地災害で生ずる廃棄物の対応に関する検討というところで、いわゆる災害廃棄物処理計画では大規模な災害というものを想定しておりますが、その計画の基準に至らないといいますが、ゲリラ豪雨その他につきましては、こちらで検討することを考えているものです。

続いて 5-2、「不適正処理の防止」というところで、いわゆる許可を持たない違法な不用品回収業者へ廃棄物を引き渡さないような周知啓発という部分です。こちらにつきましては、清掃、資源環境所管以外にも、いわゆる消費者関係、そういったところの所管とも協力しながら行っていくものです。また、必要に応じたパトロールを実施するものです。

施策 5-3、「最終処分場の延命化」、こちらは、ごみを減らすことによって最終処分場の延命化を図るというものです。施策 5-4、「熱エネルギーの有効利用」というところで、板橋清掃工場、区内に二十三区清掃一部事務組合が管理運営する施設がありますが、そちらの焼却エネルギーを、現在、区公共施設で活用しており、引き続き有効活用を図ります。

施策 5-5、「家庭ごみ有料化や事業系ごみ排出基準に関する調査・検討」です。家庭ごみの有料化につきましては、国が推進しておりますが、こちらは板橋区単独で決められるものでもないという認識がありますので、23 区と連携しながら検討を進めていきます。また、排出責任については「事業系ごみの排出者責任について明示したパンフレット類の作成・配付」というところで、事業者の皆さまへの働きかけを強化したいと考えています。

続いて資料 2 の最後になりますが、87 ページをご覧くださいと思います。「生活排水処理の現状」というところですよ。家庭から排出されるし尿、生活雑排水の取り扱いで、87 ページ中段にあります、現状で浄化槽、d になりますが、浄化槽設置を 11 台、くみ取り戸数を 20 というところで、くみ取り戸数については減少傾向にあるところですが、一定残っております。こちらの推移を見ながら適切な処理を引き続き行っていくというものです。ページとしましては 89 ページをご覧くださいと思います。

89 ページ、「施策の方向性」は、いわゆる生活排水をきちんと処理するということで、「浄化槽の適正管理」「し尿の収集運搬、処分」です。その他、第 7 章の「資料編」につきましては、今回のアンケート等について記載をしているものです。

このまま続けて、本日配布させていただきました資料 3 についてご説明させていただければと思います。

資料 3 ですが、こちらは「板橋区版ごみ減量・資源化目標の設定について」です。先日一部お示しさせていただいた資料ですが、表面、まず左側、「今後のごみ・資源量の見通し」です。こちらにつきましては、一般廃棄物処理基本計画のごみの考え方というのは、まず現状の取り組みをそのまま進めた場合にどのような推移、増えるか減るかを含めて計算しまして、その後、区の取り組みでどれぐらいそれが変化するか、減るかというところを定めることになっています。

左側につきましては、「今後のごみ・資源量の見通し」というところで、こちらにつきましては、現状、令和 6 年度、ごみと資源を合わせて 579 グラム／人日が、現状の取り組みを継続して進めると 504 まで減るということとなっています。

その下、「年間排出量の見通し」ですが、こちらは人口推計では、令和 6 年度、57 万 8,000 余から、令和 17 年には 60 万 5,000 余に人口が増えますけれども、先ほどの 1 人 1 日当たりのごみ量が減少することによって、総排出量としても、今以上に増えないというふうに想定した結果となっています。

右側、「主要品目のここ 10 年間の変化」につきましては、先日まで説明させていただきましたので省略をさせていただきます。

裏面をご覧くださいと思います。これらの状況を踏まえまして、「ごみ減量・資源化目標の設定」というところをご覧ください。今般につきましては、紙類、プラスチック、厨芥、その 3 品目を集中的に取り上げまして目標を設定します。先日までご意見をいただいた部分がありますが、こちらにつきましては、サンプル調査ですので、実際、多少の誤差が生じるという認識には立っております。それぞれ、紙類、プラスチック、厨芥につきまして、国や東京都の目標をまず整理をしています。それらに基づきまして、区独自に目標を定めているものです。具体的には、表の真ん中の「目標設定の考え方」をご覧くださいと思います。現状、令和 6 年比で、紙類については 20%削減、プラスチックについては 30%削減、厨芥につきましては全体として 15%、食品ロスにしますと 25%の削減を見込んでいるものです。

その下、令和 17 年度の目標設定というところで、紙であれば 1 万 148 トンだったものを 8,000 トンまで落とすというふうな想定、その右側、プラスチックにつきましても、1 万 1,000 トンを 7,800 トン、厨芥につきましても、全体としましては 3 万 1,445 から 2 万 6,700 まで、食品ロスに関しましては、約 8,200 から 6,100 までというところと考えています。

そして、これらを踏まえて結果として出したものが下の表です。左側、「1 人 1 日あたりごみ・資源量の算定」というところでは、左側、令和 6 年実績 579 というのが現状の数字です。その右側、一番右側になりますが、504g／人日と書いてあるのが、現状の取り組みを継続して進

めた場合の数字で、こちらは統計的な処理に基づきまして、504g／人日あります。資源としては118、それ以外のごみ、いわゆるごみというのは、可燃ごみ、不燃ごみ、粗大、その3つになりますが、その3つを合わせて386g／人日というところです。先ほど、上の紙類、プラスチック類、厨芥それぞれを達成するためには、ここで継続的に行って想定される量よりも減らす必要があるところです。それらにつきまして反映させていただいたものが、真ん中、466g／人日、ごみにつきましては335g、資源につきましては131gとなっています。

この中でポイントとしましては、左側、386g、可燃、不燃、粗大の3項目で386から335ということで減少させます。一方、118g／人日となっている資源につきましては、131と増となっています。こちらにつきましては、現在、紙とプラスチックにつきましては、減量という部分とリサイクルの推進の両面があると整理しております。紙類、いわゆる資源化可能な紙類につきましては、いわゆる減量分をリサイクルに回し、プラスチックにつきましては、半量程度が資源化可能、半量程度を排出削減というところで、ごみを減らすというふうな視点となっています。そのため、118g／人日から131gということで、紙とプラスチックが資源に回った分というところで増となっています。それについて人口を踏まえて計算しますと右側になりまして、「年間ごみ・資源量の算定」という部分で、全体としましては、いわゆる区民1人1日当たりのごみ・資源量では19%、年間ごみ資源量では16%の削減という数字を案として現在設定しているところです。

以上がご説明になります。今回、大幅な変更につきましては先ほどご説明させていただいたとおりですが、その他の変更点につきましては、参考資料としておつけしたものに詳細を記載しています。よろしくお願いします。

なお、いただいた意見で、個別具体的な事業について実施のご提案をいただいているものにつきましては、今回につきましては、具体的な取り組みにつきましては、実際、この計画を進めていく中で、実施できるかにつきましては検討していく取り扱いとします。

長くなって大変恐縮ですが、以上です。どうぞよろしくお願いします。

#### ○副部長

ご説明ありがとうございました。本日、ここの審議会でご議論いただきたいのは、資料2の50ページ以降がメインとなるのですが、その前の段階、49ページまでのところは、事務局で、今までの議論を踏まえて修正いただいています。万が一49ページまでのところでありましたら、今、ご意見をいただきますけれども、いかがでしょうか。

#### ○委員

これまでのところに関して全体を通して感じていることは、いろいろなメディアとかYouTube、それからホームページ、LINE、そういうものでいろいろな情報を流してもらっているのですが、その情報に対して区民がいかにアクセスしてもらうかということを考えていかなければならないのではないかと考えています。具体的には、どの媒体、紙媒体でもポスターでもチラシでもいいですが、そこに例えばQRコードとかURLとか、そういう電子媒体の本体、我々が見てもらいたいと思っているところにアクセスしてもらう、携帯電話で撮ってもらった



ら、それにすぐアクセスできる、そういうことをもっと進めていくことが重要なのではないかと  
思っています。以上です。

○副部長

ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。実際、さまざまな QR コード等を含めて区の情報にアクセスしてい  
ただく視点は非常に大事だと思っています。実際、紙ですとか、紙媒体ですと全部が記載でき  
ない部分がありますので、より多くの情報が載っているウェブサイトその他にアクセスしてい  
ただけるように取り組みをしたいと考えています。

○委員

よろしくお願いします。

○副部長

ありがとうございます。では、大塚委員、お願いします。

○委員

前回、欠席してしまって、その後ご意見を申し上げる機会がなくて、今日、あらためて拝見さ  
せていただいて、思うところを述べさせていただきます。

漠然としたことで、可能であれば対応していただきたいというお願い事項ですが、ページ数  
で申し上げますと、ページ番号が付いていない 6 ページのところ。第 2 章の「一般廃棄物  
処理の現状」、国内外の動向というところに、SDGs のことと脱炭素のことが書いてあります。  
単刀直入に申し上げますと、今、脱炭素とネイチャーポジティブとサーキュラーエコノミーが 3 つ  
の柱になって動いているということで、それは環境基本計画のご議論でもなさっていて、ネイ  
チャーポジティブに関しては基本構想でも議論になっていたかと思います。ネイチャーポジテ  
ィブと廃棄物処理がつながっているのはちょっと分かりにくいのですが、実は本当はきちんと  
つながっているのです。具体的な例を申し上げますと、まず鉱物資源のところから申し上げま  
すと、鉱物資源をできるだけリサイクルすることによって天然資源の採掘量を減らすことがで  
きます。そうすると、不必要な土地開拓をしないで済み、生物多様性の保全につながります。

それから、折しもちょうど今、ジュネーブで海洋プラスチック等に関する国際的な合意の議  
論をしているところでありまして、そちらでいろいろな議論が行われていますが、1 つの分かり  
やすいところと言うと、海洋にプラスチックごみが流れていくことによって、海洋生物に対して、  
あるいは海洋生物の生態系に対して著しい侵略をしているというような状況がありまして、ご  
み処理のインセンティブとして、最初の、今申し上げた 6 ページ辺りで、SDGs と気候変動な  
どというようなことが書いてありますが、そこに今の文脈を盛り込むことによって、もう少し、  
より多くの人たちの関心を集めること、あるいは、この計画をより大きなコンテキストで位置付  
けることができるのではないかと考えて提言をさせていただく次第です。

関連箇所がもう 1 カ所ありまして、57 ページの「プラスチックの焼却による地球温暖化への  
影響」というところだったと思います。そこにも、可能であれば生態系あるいは生物多様性へ

の影響というものも書き加えていただくと、今のところと呼応するかと思います。これは私のオリジナルというわけではなくて、実はページ 27 にあるエコポリス板橋の中には、今、申し上げた要素が、今、国際会議で話されている文言ではないのですが、自然のこと、生物のこと、それから大気のこととか、包括的に入っているので、このエコポリス板橋宣言にもっと即して、今言ったような最新の言葉で再度この計画の重要性を位置付けていけるようになると思いました。

○副部長

ありがとうございます。事務局、お願いします。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。おっしゃっていただいた内容、記載の内容につきましては、調整させていただいて、盛り込むように考えています。

○副部長

重要なご指摘だと思います。ありがとうございました。大倉委員、お願いします。

○委員

私のほうは 2 点あります。表現の仕方の問題でお伺いしたいのですが、資料 2 の 8 ページを開いていただいて、ここに「3R の推進」が出てきました。3R というのは何かということで、109 ページから用語集というものが出ています。3R の説明はここに書かれていますが、要は用語集がページに書かれている内容とリンクしていないように思います。どういうことかという、例えば 3R のところに米印を付けるとか、それで索引で見られますとか、そういう表現の仕方を考えられたらどうかということが 1 点。せっかくの用語集が活かされてこないような気がします。是非、用語集を活かすためにも意見を申し上げます。

それから 47 ページですが、私だけかもしれませんが、このページの一番上に「生ごみ」と出てくるのですが。次のページを見ていただくと、48 ページ、施策 2-1 の四角の中に「生ごみ(厨芥)」と出てくるわけです。そうすると、生ごみの言葉というものはどういう位置付けなのかが見えなくなってくるような気がします。だから、この辺も、47 ページの 1 行目ですが、「生ごみ」を重点的に実施していますが、ごみの組成比率では、「厨芥」、それで「紙類」それから「プラスチック」というように表現されているわけですが、それが、いわゆる「生ごみ」と表現した場合は一括してそういうものが集合的にと理解されるのか。それとも「生ごみ(厨芥)」とするような表現がどうしても必要になってくるのであれば、ここで生ごみの定義をきちんとしておかないと、内容が理解できなくなってしまうのかなと思いますので、この辺を検討されたらどうですか。私からは以上です。

○副部長

ありがとうございます。用語の統一等々につきまして、どうでしょう。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。いわゆる用語が、幾つか表現に揺らぎがあることによって混乱することがないように、少し表現方法については工夫させていただければと思います。

#### ○副部長

ありがとうございます。小泉委員。

#### ○委員

海洋プラスチックの問題が出ていますが、日本の廃棄物をやっている業者は、不法投棄をしている方は別ですが、基本的には、行政も含めて、やっている業者も産廃も含めて、そういうことは絶対はないのだと思っています。私どもも適正に処理しています。日本国内では、焼却するのがいいかどうかは別問題ですが、焼却され、埋め立ては山の中で捨てています。海洋プラスチックのことは、世界的に問題であるという形になっておりますが、我々、廃棄物を扱っている者が海洋プラスチックを流しているみたいな捉え方をされてしまうとちょっと困るなという部分があったものです。お分かりになっていると思っているのですが、1 つだけ付け加えさせていただければと思いました。

#### ○副部長

ありがとうございます。大塚委員。

#### ○委員

決して業者の方の活動を非難するようなつもりは全くなくて、実は家庭ごみから出ているところが多いのではないかと私は個人的に思っています。海辺で遊んでいて、風で飛んでしまったビニール袋であるとか、古い例でいうと、日本にはないのですが、アメリカだと、ビールの缶を 6 つで止めるシックスパックというのがあって、それがウミガメに絡んだりとかいうような悲しい写真が、有名なものがあったりする。それは別に処理業者の方のところから漏れているわけではなくて、家庭から漏れていくものがあります。

それから、私もプラスチック製の植木鉢などを使っていて、だんだん耐久が落ちてきて劣化してばらばらになってしまって、このままマイクロプラスチックになって海に流れていってしまうというようなことを、日々、ドキドキしながら使っているところもあって、決して業者の方ではなくて、生活者個人が、日々、気を付けていかなければいけない問題だと思って発言させていただきました。

#### ○副部長

ありがとうございます。それでは、もしプラスアルファでまたありましたら、また事務局にコメントでお問い合わせというか、ご意見をいただければと思います。

いったん本体の、本日の 50 ページ以降のところの議論に入りたいと思います。議論に入る前に、本日ご欠席の石垣部長からコメントをいただいておりますので、事務局からご紹介をお願いします。

#### ○資源循環推進課長

本日、お手元に、石垣部長からいただきました、ご意見・ご質問シートを机上配布させていただいております。それについて、事務局でお答えする部分について、最初にお話をさせていただければと思います。

まず初めに、「発生抑制(リデュース)」のくだりです。いわゆるリペアについての記載を充実さ

せるというふうなご意見等をいただいています。リペアにつきましては、区民の方もそうだし、事業者連携、両方からの視点というふうなご意見をいただいています、こちらについては少し記載を加える等について検討させていただければと考えています。

続いて丸 2 つ目ですが、「3R の中でも特に 2R(リデュース・リユース)が肝要である。2R の次の順序としてリサイクルとする章立てもありうる。」というご意見をいただいています。現状、計画では、2 番としてリデュース、3 番としてリユース・リサイクルということで、リユースがリサイクルにつながっているという現状があります。3R のうち、リサイクルに比べて十分でないリデュース・リユース、2R の推進を国も推進していくものですので、少しこの章立て、リユースの位置付けをリデュースに加えるということで修正を図らせていただければと思っています。実際、施策はリユースが 1 つまとまっていますので、リユース部分がそのままリデュースに移行といったような形で想定しております。

続いて 55 ページ、再使用・再生利用というところで、こちらから始まる 3 つの指標につきましては、いわゆる紙と集団回収と登録者数というところの指標の設定の仕方についてご意見をいただいているものです。いわゆる出戻り感が生じないか、あるいは集団回収の団体数は増とまで書かなくてもよいのではないか。あと、古紙と集団回収の指標につきましては重複感があるのではないかというお話をいただいています。こちらにつきましては、指標の中で少し整理をさせていただければと考えているところです。

その下、丸 4 つ目になりますけれども、施策 3-1、リユース、リサイクルのくだりで、リサイクルショップ等の書き方をしているのですが、恐らく、計画等をご覧になる方には、ジモティーですとかメルカリという単語のほうが、聞きなじみがあるといいますか、そういった固有名詞のほうがイメージが湧きやすいというところで、できる範囲で事業名に、こういった名称を検討したらどうかというお話をいただいています。こちらにつきましては、実際、そういった固有名詞が、10 年計画ですので、記載することにつきましては、少し要検討かと思っています。ですが、もう少し分かりやすい表記というものについては考えてまいりたいと思っています。

続いて 63 ページの「収集運搬」についてのご意見です。実際には 64 ページの「区民サービスの向上」、先ほど、高齢者、障がい者の皆さまのくだりの話をさせていただきましたが、ごみ出しに支援が必要な方につきましては、「ごみ出し支援」という用語が一般的になっているというところで、こちらについては修正させていただくということで考えています。

続いて施策 4-2 の 1 つ目、「集積所の美化、適正な分別排出を奨励」、いわゆる「奨励」という単語をもう少し具体的に書いたほうがよいのではないかというお話をいただきましたので、こちらもし記載については検討といいますか、修正をさせていただくということで考えています。

続いて施策 4-3 の労働力不足につきましては、持続可能な収集体制を推進することが極めて重要である、宅配業者は既に暑熱対策を含めた休業期間設定や時間帯変更の取り組みを進めていて、収集においてもその点を言及してもらいたいということとなっています。こちらにつきましては、区民の利便性と実際の収集に従事している方々、区の職員も含めてということ

ろにつきましては、対応につきましては少し調整をさせていただければと思っています。

その表面、一番下になりますが、施策 4-4 の部分で、不法投棄と資源持ち去りというところ  
です。こちらで、犯罪であるとかマナーが悪いというところで、不法投棄と資源持ち去りは、少  
し性質が違う部分があるのではないかとのご指摘をいただいている部分がありますので、  
そちらにつきましては文言の調整をさせていただきたいと考えています。

そして裏面の施策 4-5、「区で収集・処理ができない」というより、出す人、収集する人、全て  
の方にとって有害物であるという視点を取り入れるとよいというご指摘をいただいています。  
こちらにつきましても、そうした視点につきまして、少し加える形で修正等をさせていただけ  
ればと思っています。

最後、リチウムイオン電池という名称ですね、そちらの名称を示しつつ、現状決まっていなけ  
れば、今後定めて周知するという方向性を記載するとよいというところで、先日の審議会等  
でもお話しいただきまして、いわゆるリチウムイオン電池につきましては、区は現在、集積所で回  
収できないかというところの調整を進めています。その点を踏まえまして、少し表現につつま  
しては検討させていただければと思っています。

続いて、69 ページからの「適正処理処分」についてのご指摘、ご意見です。丸 1 つ目、有料化  
については、23 区である程度連携・共有し進めることを明記するとよいということで、こちら  
につきましては、23 区、板橋区だけでは決められる内容ではないと考えていますので、そうい  
った視点が分かるよう、記載を考えたいと思っています。

続いて丸 2 つ目ですが、指標に事業系ごみの排出量があるが、事業系ごみについて書いて  
ある部分が、区収集に入っている事業系なのか、持ち込みごみのことなのか分かりづらいとい  
うご指摘をいただいています。現状、区集に日量 50 キロ未満のものも入っていますが、そち  
らが少し分かるような記載というところで、補足等を検討させていただければと考えていま  
す。

続いて丸 3 つ目、「清掃工場や最終処分場は区の所掌外である」というところについて、完全  
に無関係ではないが、処理基本計画に書ける範囲でできることは限られているので、施策とし  
て区にできることのみを記載しているということのをうまく伝えられるとよいというところで  
す。実際、清掃一部事務組合につきましては、23 区共同処理ということがありますので、そうい  
った点は本文に記載するか、あるいはコラムという形にするか、要検討ですが、分かるように、区  
と二十三区一部事務組合と東京都、東京都は区が委託している部分ですが、そちらについて  
分かる記載を考えたいと思っています。

最後、「家庭ごみの排出量はリデュースの指標にもなる。指標は重複してもよく、この指標は  
どの発生抑制の施策とも関連がある等の追記をしてはどうか」というご指摘をいただしてい  
ます。リデュース指標につきましては、そちらのご指摘いただいた内容を踏まえまして、少し調  
整を図らせていただければと考えているところです。

以上、長くなりまして恐縮ですが、現在の事務局の調整、見解です。よろしくお願いします。

○副部長

ありがとうございました。部会長からたくさんのコメントが出たところではあるのですが、今度は皆さんからご意見、ご質問等をいただければと思います。いかがでしょうか。

#### ○委員

私からは 2 点です。ジモティーやメルカリ等の個別の名称を出せるということに関しては、私は反対です。10 年後までの長期の計画の中で、民間の業者がいつつぶれるか分からない、残っているか分からない。それから、そういう公的文書の中に名前を出すことによって、その会社を宣伝することにつながるような、そういうことは区としてはすべきではないと思います。

2 点目。清掃工場や最終処分場は所掌外である、だから、区としてやれることだけを書いたらいいのではないかという意見に関しては、そういう組合であっても、区の代表として何か関わっているわけです。だから、清掃工場で何かトラブった時の影響があまりにも大きい。戸田の清掃工場は、火事になった時に、町の中がごみだらけになった。そういうようなことが起こった時に、あまりにも影響が大きいので、これに関してはきちんとコメントして、どういうことを考えているか区民にきちんと分かるように説明することが必要ではないかと思います。

#### ○副部会長

ありがとうございます。事務局、いかがでしょうか。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。まず 1 つ目の固有名詞につきましては、表記としては、固有名詞というより、少しサービスの内容が分かるような形というふうに、今、考えているところです。

その次の、清掃工場ですとか埋め立てにつきましては、記載する方向性としましては、一般廃棄物の統括責任、最終的な責任は区にあるという前提は、当然、記載は必要かと思っています。その中で、実際に共同処理をしている、あるいは委託しているということになりますので、全く区に責任がないということではなくて、実際、委託等共同処理というところで、必ずしも板橋区だけの意見が反映できないというものが多分にありますので、そういった部分は調整しますけれども、何もしないということではなくて、板橋区でできる範囲のことをするという視点かというふうに考えています。

#### ○副部会長

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。では、先に大倉委員で、その後、豊城委員お願いいたします。

#### ○委員

私からは 1 点です。これも以前ちょっと話題になったような話ですが、雑がみについての認知度が低いという内容がありました。それで、区で作っていただいた、これは「資源とごみの分け方・出し方ハンドブック(改定版)」なので、区で区民全世帯に配っていただいたのは令和 5 年の 12 月発行分ですか。資料 2 の 56 ページに古紙の分別回収の徹底ということで施策 3-2 に載っている中に、3 つ目の丸のところに「雑がみ(紙箱、紙袋、OA 用紙等)」ということで表現されていますが、ハンドブックの中にはそういう表現になっていないです。雑がみという言葉が載っていない気がします。だから、認知度が低いのだらうと私は思うのです。

それで、ここにせっかく、この発行されたハンドブックの 7 ページのところに、今お話ししました表現が、紙箱・紙袋・OA 用紙と書いてあるだけで、ここに本来、資料2素案の 56 ページの、雑がみ括弧何々という表現に変わらないと、一般の区民の方は全然分からないと思います。私も家でよく見てみたのですが、この資料の中には雑がみという言葉が出てこないのです。だから認知度が低いのだろうと。前回はそういう話が出て、しっぽ切れのように終わっていたものですから、私も再度調べてみたら、やはり雑がみの言葉がないので、表現するのであれば、素案の 56 ページのような表現に変えていただいたほうが、雑がみの認識が増えるように思います。よろしくお願いします。以上です。

#### ○副部長

いかがでしょうか。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。いわゆる雑がみという固有名詞といいますか名称といいますか、アンケートする時にも品目の例示を挙げまして、こういったものを雑がみと呼びますが、ご存じですかという書き方をしています。今後、雑がみという単語を使うのか、紙箱とか紙袋等ですか、そういった実際に何を出せばいいのかにつきましては、発信の仕方かなと思っています。例えば、「ご家庭に眠っている紙箱はありませんか」とか「ご家庭で使わない紙袋はありませんか」と言うほうが、「ご家庭で眠っている雑がみはありませんか」と言うより伝わるという部分がありますので、その辺りは、雑がみという単語も使い、個別の内容も使いながらという発信の工夫かなと思っていますので、その辺りは、今後調整といいますか、研究させていただければと考えています。

#### ○委員

分かりました。これは改定版として発行されています。保存版で令和 7 年 3 月ですが、この時と、令和 5 年 12 月に発行されているものと、内容が少し変わっているわけですね。ということは、それは区民の方に、別ペーパーか何かで周知されているのですか。そこがちょっと疑問なのです。改定された内容については、きちんと区民の方に下ろしていく必要があると思っています。その辺もご検討いただければと思います。

#### ○副部長

お願いします。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。令和 5 年 12 月に発行したものにつきましては、プラスチックの回収が始まるということで全戸配布をさせていただきました。その後の改定は、基本的に転入者向けということで、大幅な変更はないというものになっています。これが、いわゆる大幅な変更があるものの場合は、あらためて全戸配布するとか、そういったことの対応については考えてまいりたいと思っています。

#### ○委員

よろしくお願いします。

#### ○副部長

はい。では、すいません、お待たせしました。

#### ○委員

産業連合会の豊城です。1 点質問がありまして、65 ページです。施策 4-5、「適正処理困難物等への対応」についてです。いわゆるリチウムイオン電池の対応について。昨今、先ほど大倉委員でしたか、リチウムイオン電池による火災等々で大変な状況になっているということで、現在、板橋区は、電池については、いわゆる JBRC 対応ということでやっていると思うのですが、私が今、深刻だなと考えるものは、モバイルバッテリーなのです。

私は通常、携帯電話用モバイルバッテリーをバッグの中に常備しているのですが、ずっと使う機会がなくて、先日、久しぶりに取り出したら、少し膨らんできていたのです。これは、そのまま、そのバッグを放置したまま車の中に入れ込んでしまっていることもよくあるのですね。ぞっとしまして、慌ててそれを取り出して、バケツに水を張ってそれを入れた。では、これをどうすればいいのだと思って、慌てて板橋区のホームページを見たら、どこにもその対応が書いていない。実は、新宿区は今年から、いわゆる拠点回収ということで、モバイルバッテリーも含めて回収を始めて、おおむね区民の方から好評をいただいているというお話も伺っています。板橋区ではどのようなお考えなのか、お聞きしたいと思います。

#### ○副部長

では、事務局、お願いします。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。リチウムイオン電池につきましては、膨張していなければ JBRC 等で受け入れていただけるものだと思っていますので、そちらをご案内しているところです。ただ、傷が付いたり膨張している等につきましては、JBRC 協力店で断られているという話は聞いていまして、そういった場合は区にご相談いただくということでご案内をしております。実際は、区でご相談いただいた場合は、不燃ごみの日に、注意書きを書いていた上でお出しいただくということになっています。

現在、今後につきましては、集積所を今、考えて、調整等を図っている部分ですが、リチウムイオン電池のごみ全般、膨張したものも、いわゆる集めた以降の処理といいますか、処理事業者の方との調整が必要ですので、その辺り、少しお時間をいただいておりますが、その調整が整い次第、集積所回収につきましては進められればという調整状況です。

#### ○委員

ありがとうございます。先ほど、難波委員も別な問題でおっしゃっていたのですが、ちょっとホームページが分かりづらい。なかなかその場面までたどり着かないのです。ですから、このリチウムイオン電池については、これはもう喫緊の問題ですので、例えばホームページのホーム画面で、適正なリチウムイオン電池の対応について等々のバナーというのですか、そういったものを作ってくれたほうが、区民に浸透しやすいのかなと感じていますので、その辺のところもご検討いただきたいと思います。



#### ○副部長

ありがとうございました。それでは、その他、いかがでしょうか。

#### ○委員

先ほどから見ていて、目標指数が各区よりもかなり厳しいのではないかという部分があります。板橋区は今でも結構排出量が少ないと思うのです。そこをまた下げていくというのは、なかなか厳しいのかなと。それをやっていかなければいけないのかもしれないのですが、厳しいのかなという部分で、その後ろに隠れているのが、何か有料化のようなものが見えていて、有料化すれば減るじゃないというようなものがあるのかなというところがあります。このところ、有料化ということを言い始めていて、今、本当に人手がない中で、有料化し、各区 23 区で一遍にやった時に、本当にそれだけの人が集められるのか。それが当初はできたとしても、今後、未来永劫、その人数を確保してできていくのかということは大変な問題ではないのか。事業者としては、集めなくてはいけない部分で集めていく努力はするのですが、この日本の中で、今、なかなかやる手がないということも事実だと思うのです。そういう 3K というのですか、今日のような暑い日でも、昼間からずっと、また寒い雪の日でも歩いてやりましょうということは、それは戸別収集になった時に、毎日、競歩の選手ではないですが、何時間も歩くような作業をせざるを得ないということが本当にできるのかどうかという問題があるので、そこは慎重にやっていかななくてはいけないことがあるのではないかと思います。AI 化が進んでいくにしても、日本の道路は、狭小路地や、道路といえないような道路もあったりする。全部が全部、近代化の、ヨーロッパのように、大型のバケツに入れて機械で投入するということができないと思います。そういう中で、戸別になっていく上では、もう少し違うやり方を検討していくべきではないかと思うものがあります。

それから、段ボールで宅配注文するのが当たり前という言い方が正しいのか分らないですが、主流になってきていると思います。その中で、段ボールは資源でもありながら減らしましょうという中、世の中では宅配で置き配にしましょうと言うのも、国の政策としてあるとも思うので、その辺の矛盾というか整合性をどう取っていくのかということも大事なのではないかと思います、質問させていただきました。

#### ○副部長

ありがとうございます。事務局、お願いします。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。おっしゃっていただいたとおり、まさに今後の強靱(きょうじん)性といえますか、持続可能性といえますか、実際に収集して以降、処理するところについても相当な人力が必要ですし、お金もかかるというところがあると思います。そういった中で、ごみを減量のことだけを考えて、実際、収集ができなくなるとか、あるいは処理できなくなったら本末転倒という部分があります。その辺りは、実際、例えば資源循環、全体 23 区の課長会等がありますが、そういった中でも、いわゆるできること、できないことなどで、例えば、減らせばなんでもいいという話にはならないので、その辺りは、実際にやるとすればこういった形ができる

のか、実際、調整といいますか、今、さまざまな要素を比べて、一番よい形、できる形に落とし込んでいくということが大事かと思っています。実際、23 区でのさまざまな意見や考え方があります。その中で、調整する中で意見交換しながら 23 区全体でできる部分、あるいは、各区事項になる部分というところは調整が必要と考えております。

実際、AI ですとか最新技術につきましては、まだまだ、どこまで対応できるのかという部分がありますけれども、その技術革新がどのように今後展開されるのかにつきましては、注視といいますか、よく把握しながら、活用できるものは活用し、逆に AI や DX を使ったことによって、もっと大変だったということであれば本末転倒だと思いますので、その辺りは、コストや得られる利益という部分を比較考量しながら決めていくということが、本来、行政的な発想で考えるべきことだと思いますので、双方の面から考えるという視点を持っているところです。

#### ○副部長

ありがとうございます。よろしいですか。他はいかがでしょう。

#### ○委員

つい頭の中が、自分の住んでいる地域と比較してしまいます。この基本計画 2035 が非常に抽象的に書かれて、そして実際に私だったらどうするのかなと読ませていただいております。こちらの基本計画で言いたいことも書いてある。それがごちゃ混ぜに書かれていて、受け手側、居住している人が、本当にこの基本計画が言おうとしている重層的な哲学に始まって、具体的なものに、施策に落とし込めるところがつかぬのかどうかということが理解されるか疑問になってきております。重層的な記述になっているところを、例えば第 1 章であると、シンボル挿入予定ということが各章に入っていますよね。そのところにもう少し、板橋区が取り組もうとしている基本哲学のようなものが、こういうところに入った上で、この各ページの展開があっても良いと考えます。そして末端にいる生活者が、実際に資源として出すのか、ごみとして出すのかにつながるような展開が欲しいです。

それと板橋区は、エコポリスセンターがあって、具体的な学びというものはそこでも展開されていると思うのですが、何か乖離(かいり)が起こっていると感じています。最近、私がびっくりしているのは、新聞もタ刊が、ある曜日は配達されなくなりました。それだけ人手不足が深刻であり、人手不足が社会のシステムに影響をもたらしています。その辺を見込んで、この書きぶりや、そういったものと、本当に身近なところで学びにつながる、エコポリスセンターの役割とつながる展開が必要と感じます。例えば、リチウムイオン電池などは絵本にも入っているのです。これはお子さんたちが、音が出なくなったら、そのままポイッとごみを捨ててしまうのです。それが焼却場に入る時に、スコップで整理されて、それで傷付くとそこで火災が発生するか、そういうことにもつながっていくのです。私たちが対応できないようなものがあふれているので、これは座長さんにご意見を書いてきたように、あまりあいまいに書いてしまうと一般市民は理解できないと危惧します。

#### ○副部長

ありがとうございます。事務局、いかがでしょう。今、ご指摘いただいたのは、29 ページ

のナラティブのところが、もう少し拡充されると、ストーリーとして全体がつながるような見せ方になるのかなというご指摘かなというふうに思ったのですが。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。今回の計画で、いわゆる区民の人の行動変容といいますか、行動に取り組んでいただくという視点が非常に大事だと思っています。その中で、情報発信においても、お子さまから高齢者、外国人、日々忙しくしている方、環境にすぐに取り組んでいただける方、そこまで余力がない方、さまざまな方がいらっしゃる中で、それぞれに応じたどのような情報発信するのかということが、ある意味ポイントかと思っています。

そういった意味でいうと、いわゆる身近なリチウムイオン電池ですとか身近なものの情報発信から、その先にもし、広い全体計画をご覧いただける方にはご覧いただくというパターン、あるいは、区全体を、もし全体を把握したいという方には全体を把握するというような、どこからでも入って来られて全体を見られるということが、恐らくいい形だと思っております。その辺りは、いろいろな方々に、入り口、きっかけは全体や個別から入る、両方ありますけれども、最終的にはごみを減らす、より適切に排出する、その辺りがご理解いただけるような、情報の把握、理解、仕組み、導線といいますか、そういうものの設計が、非常に難しいながらも必要なのだという視点を持っています。

その中で、今回、計画ですとかハンドブックを含めて、どのような区民の皆さまが日常的に目にするものを設計していくのかということは、なかなか非常に高いハードルながらも、これからなんとか努力をして取り組んでまいりたいというふうに思っている状況です。

#### ○委員

説明を伺っていて全体的に、チラシを配ればいいと感じてしまうのです。盛りだくさんになっているけれども、これを理解して分別して出していただけるように記述していただきたい。

単なるチラシではなく、サーキュラーエコノミーの考え方を取り入れてはどうか。私たちが行動をしたり物を購入するということは、経済的な仕組みで、自分でお金を出したり、税金で処理していただく方法が見える形が基本計画の中にあるといいのではと考えます。

#### ○副部長

ありがとうございます。何かございますか。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。おっしゃっていただいたとおり、まず計画自体は廃棄物処理という計画ですけれども、廃棄物の裏には、生活などさまざまな活動というものが入っているという認識は持っています。その中で、いわゆる一般廃棄物処理計画という中で、どこまで書き切れるのかということは、なかなか課題だと思っています。現状、こういった形ではありますが、実際、これにつきましては、生活での一場面やあるいは教育委員会との連携、その他さまざまありますけれども、ここで書き切れる内容と、書き切れない内容での連携等、工夫をさせていただければと考えているところです。

#### ○副部長

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

○委員

食品ロスに関連して質問はよろしいですか。

○副部長

そうですね、次回以降のご参考という形になるかと思いますが、お願いします。

○委員

食品ロスの削減の推進計画に関する質問と意見ですけれども、1つ目の、防災備蓄食品の期限が来た時に区民に利用してもらうということに関して、できればそういう区民祭りとか、そういうところで区民に対して説明しながら配布をすとか、実際、区がこういう備蓄をきちんとして、皆さんにその分を配布しているのですよという、逆に区が区民に対してアピールする、そういうことにも使えるのではないかと思います。関係する団体にどんどん回していけば、一般区民が分からない状態で使うわけですね。だから、一部の人が使っている、そういうことよりも、何か区民にアピールできるような使い方あるのではないかと、ということが1点です。

それからもう一つは、厨芥ごみが飲食サービスの中に非常に多いというので、そういう生ごみの処理の方法として、よく目にするのは、デスポーザーとコンポスターですけれども、デスポーザー処理について私も調べてみたのですが、市や自治体によって、デスポーザーの処理したものを直接下水に流すのは禁止しているところとか、それから配管の再整備とか、受ける分解槽ですか、そういうものを整備しなければならないとか、いろいろなことが関連して要求されると思うのですけれども、板橋区としては、デスポーザーの、戸建てとか集合住宅とかへの設置に関しての見解というか、推進していくのか、それとも、今のところはまだ施策として検討できていないのか聞かせてください。下水処理、下水処理の他にも関係すると思うのですが、そこら辺の見解をお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

○副部長

事務局、お願いします。

○資源循環推進課長

ありがとうございます。まず、防災備蓄の活用につきましては、いわゆる配るだけでなく、そのストーリーといいますか、どういったもので備蓄をしていて、それがという部分は、防災所管課との連携にもなりますけれども、そのようなことを含めての周知というものは今後考えるといいますか、させていただければと思っています。

いわゆる厨芥ごみ、デスポーザーで碎いて下水道に流すという部分ですけれども、特別区の場合、下水道は東京都の所管になっている部分がありまして、デスポーザーの設置については東京都が定める要件を満たす必要があります。デスポーザー設置の購入補助につきましては、各区で、デスポーザーを除くとしていたりですとか、あるいはデスポーザーも、東京都の許可があればよいと言っているようなところもあると思います。

現状、板橋区では、コンポストも含めて、食品の取り扱いに関する補助はない状況ですので、

現状では、ディスポーザーを推進しているという立場には立っていない状況です。実際、この辺りは、下水道の部分もありますし、他の状況も踏まえながら、いわゆる生ごみ処理のあり方として、コンポストがいいのか、生ごみ処理機がいいのか、ディスポーザーがいいのかということにつきまして情報収集をしてまいりたいと考えているところです。

○委員

集合住宅、マンションなどでは、今の新しいマンションは、大体ディスポーザーが付いていると思うのです。私が住んでいるところにも付いていて、排水処理の分解槽があって、その分解槽の汚泥を、業者が年に何回か取りに来るというような形になっているのですけれども、今のところは、そういう設備のプッシュ的施策は無いということですね。

○副部長

ありがとうございます。第 5 章の辺りは次回以降となりますか。

○資源循環推進課長

第 5 章は前回の時に。

○副部長

前回の時にやりましたか。

○資源循環推進課長

はい、前回に一応ご審議いただいたものが反映している形になりますので、基本的にはご検討いただき済みという認識があります。

○副部長

分かりました。

○委員

災害の備蓄品は、全量ではないにしても、私は舟渡ですが、舟渡だけではなく、防災訓練の時に参加者に、これは備蓄品ですと、期限前の 1 年ぐらい残り期限を持って配ってはいるので、板橋区としては。だから全量を流しているわけではなくて、防災訓練に参加していただいている人には、これは区からの備蓄品をお渡ししますという話を毎回私も話しているものですから、全量、説明していないわけではないのだと思いますので。一応、区の者ではないですが、一応、区の対策でそういうことはやっていますということだけはご報告しておいたほうがいいかなと思います。

○副部長

ありがとうございます。情報共有になったと思います。その他、いかがでしょうか。

○委員

私は今、町会長もやっているのですが、集積所の問題で、隣同士でもめている事例を昨日、聞きました。集積所についての対応を区でどのようにやってもらえていますか。戸別収集のところで隣同士でもめることもあるのだそうです。

○資源循環推進課長

事務局からお答えします。集積所に関する管理自体は、基本的には排出される皆さまで行っ

ていただいていますけれども、いわゆる、新設、分散、廃止というところで、清掃事務所がご相談等に乗らせていただいている場合があるので、そちらについては、状況に応じて清掃事務所にお問い合わせいただければと考えているところです。

#### ○委員

そのような指導は昨日したので、まだご連絡は行っていないと思うのですが、いずれ相談に行くと思います。住民の人と隣の飲食店の人がもめているみたいなのです。そのような状況なので、区は集積所に対して個別に対応していただけるのかお聞きしたかったので聞きました。ありがとうございます。

#### ○副部長

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

私も 1 点だけよろしいですか。64 ページの収集運搬のところですが、こちらに書かれていないこととして、長期的な計画の中には、例えば収集運搬に必要な車両の省エネ化とか電化とかということも検討の中に入ると、温暖化対策の事務事業編とか、そういったところともリンクするのかなというふうに思っています。なかなか車両コストが高いということは重々承知していますけれども、23 区さんと連携して、その辺りのご検討も入ってもいいのかなと思いました。いかがでしょうか。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。いわゆる車両の省エネ化ということにつきましては、さまざま今、実証実験ですとかさまざまな取り組みをされているところですので、その辺りは注視をする必要があると考えています。そもそもの今回の視点でも、環境に負荷の少ない収集運搬体制という部分がありますので、この中で記載の方法につきましては、少し調整、検討させていただければと考えているところです。

#### ○副部長

ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。

#### ○委員

実際にやっている立場からすると、電化の車は 2 トン車がメインなのですが、2 トン取れない積載になっていたりします。あと CNG が一時期環境に優しいというので入れたのですが、CNG は補助がほぼ付かない。そうやってきってしまうと、環境に優しいことをやったのに業者は負担が増えてしまう部分があるので、ぜひとも、やるならば、きちんとそこまで手当していただかないと、ちょっと厳しいと実態の部分で感じている部分です。環境にいいことをやることはいいのですが、区民をきちんと守ってほしいと思うところが正直なところです。

#### ○副部長

そうですね。温暖化対策課と連携しながら、きちんとそこを踏まえていただくという話ですが、よろしいですか。

#### ○資源循環推進課長

そうですね、計画としましては、実際、その辺りは、環境基本計画等ですとか、その辺を含めてのお話になると思いますので、記載をするかしないかは、ちょっと調整させていただきますけれども、実際、車両導入につきましては、関係所管と一緒に協議しながら進めてまいりたいと考えています。

#### ○副部会長

ありがとうございます。その他、まだご発言をいただいていない委員の皆さま、何かありますか。よろしいですか。

#### ○委員

事業系の排出の件ですが、集積所とかシールも大事ですが、実際にやってもらいたいのは、業者というのは、大規模だと計画を出していて、きちんと指導もやっているのでしょうけれども、小さいところは箇所数が多いから、そんなものはできないよというのはそのとおりで、パンフレットしかできないのかもしれないのですが、その辺を指導していかないと、排出業者が適正にやっているつもりなのだけれども適正にやっていなくなってしまうような事情が結構あると思うのです。ふれあい指導も住民にもやらなければいけないから、事業系まで回らないよということがあるのかもしれないのですが、やはりそちらのほうもやっていただかないと、一般廃棄物というのは、事業系も家庭系も全部区の責務という形になっていますので。やっていただかないと業者も苦しいのかなと思います。廃棄物業者は、出されたものを持っていくしかないという状況もあると思います。

#### ○副部会長

いかがでしょうか。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。一般廃棄物の排出事業者ですね、排出事業者が適切に出していただくという視点もやはり大事だと思っています。現状、何ができるか、ハンドブックですとかチラシ、リーフレットというところは、ある種、すぐに取り組める部分はありますけれども、実際の指導につきましては、また今後の研究課題という形で捉えていまして、どのように書き切れるかということは、なかなか記載が難しい部分はありますけれども、長期的な研究課題という認識をさせていただければと思っていますところ です。

#### ○副部会長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

#### ○委員

パンフレットやチラシだけで生活者の行動変容を本当に起こすのかなというところがあって、板橋区としてセンスのある取り組みをしていただけるとありがたいなと思っています。28、29 のところに書くならナラティブなものとして書くことも考えられます。エコポリスセンターや古い街並み、たとえば大山のところとかとの連携もあり得ます。私が北欧で見たのは、ある古民家に、要らなくなった家具を、ものすごくしゃれたデザインで置いてあるのです。そこにはテレビの画面があって、展示している以外にもこのようなものがあります、そして、あなたのお

うちのインテリアも、こういう家具で素晴らしいものになりますよと、DXとか、他のアプリも使えるようになっていました。エコポリスセンターでイメージしづらいのですけども、しゃれた展示とか、そういうものが誘発できるような、ここの28、29、そしてパンフレット類にも、何かそういうところに行くと、いろいろなものが学べますよと案内するのはどうですか。ただ、単身者の増加と人口増加、さらに外国人が増加、その時に、どうアピールするのがいいのか配慮してほしいところです。外国の方がエコポリスセンターまで学習に行くとか、そういったところまで期待できない時に、どのように考えていったらいいのかということが課題と考えます。以前だったら活動している人が板橋区には多くいて、そういう人たちのアイデアがエコポリスセンターにも提示されていたような気がするのですが、計画の一段下がったところでの具体的なものを紹介するなど、住民の一般のかたとの乖離が出てきているかなと、感じます。せっかくナラティブということを書いているのだったら、そのところもぜひよろしくお願いします。

#### ○副部長

ありがとうございます。事務局から。

#### ○資源循環推進課長

ありがとうございます。まさに、今、情報の発信の仕方として、紙やチラシは、やはり手に取らないという部分がありまして、恐らく、例えば町歩きをしていて、そういったことをやっているお店がふと目に入れば寄ってみたり感じたりということはあると思います。そういった、区民の方が、板橋という町を歩く中で、目に付くところに、いかに設計といいますか、できるかということが肝だという認識は持っているところですが、なかなかハードルが高いものがありますので、その辺りは、実施の普及啓発の中で何ができるのかということは、引き続き研究、検討させていただければと考えているところです。

#### ○副部長

ありがとうございます。今回ご議論いただいているのが基本計画ということですので、ここからまたさらに、今日、いただいたようなブレイクダウンした具体策というところは、アクションプランのような形で今後とも検討いただけるはずだと思います。

それでは、よろしいでしょうか。皆さま、ご意見ありがとうございました。事務局におきましては、各委員のご意見を参考に、今後の計画策定作業を進めていただければと思います。

本日の審議内容について、他にご意見等がありましたら、お手元に配布されていますご意見・ご質問シートに記載いただきまして、事務局まで提出いただければと思います。事務局で調整させていただいて、次回以降の部会で報告させていただきたいと考えています。

それでは最後に、事務局から何かありますか。

#### ○資源循環推進課長

本日はありがとうございました。本日、いただきました内容等を踏まえまして調整等をさせていただければと考えています。

この後の流れですが、この後、シートを含めて、本日いただいたものを反映しまして区の内部会議にかけさせていただきまして、素案を整えたいと考えています。その後は、9月8日にな



りますが、部会の皆さまを含め、全体の会議がありますが、こちらでまず、区のほうでまとめた内容について報告させていただいて、翌日になって恐縮ですが、9月9日が次回の部会になりますので、そちらで詳細の内容につきましては、ご説明ですとか原案に向けてのお話をさせていただければと考えているところです。どうぞよろしくお願いします。

○副部会長

それでは、次回は9月9日13時から第4委員会室で開催ということですので、皆さん、よろしくお願いします。

これをもちまして第5回清掃・リサイクル部会を閉会します。皆さん、ありがとうございました。

○一同

ありがとうございました。